

RKU Today

流通経済大学広報誌

AUTUMN 2014

【特集】

学生全員が主役 濃密な学び場
RKUゼミのすべて



G・R・O

04	【特集】	文：沖野雅広（企画広報室）	学生全員が主役 濃密な学び場 RKUゼミのすべて
08	【学長室だより】	小池田富男（流通経済大学長）	キャンパス選択制の10年とこれから
10	【連載】 留学体験記 第3回	取材：沖野雅広（企画広報室）	自己留学にチャレンジ！
12	【英会話講座 ICP スタート】		キャンパス内留学 始めてみませんか？
14	Close Up!	流通経済大学	[教職員紹介]
16	【馬場啓一のRKUウォッチング】	文：馬場啓一（法学部教授）	田畑亨先生に東南アジアの現状を聞く 田畑 亨 スポーツ健康科学部准教授
18	【OB/OG訪問】立川が聞く。	取材：立川和美（社会学部教授）	長谷川祐司さん（1980年3月卒業・社会保険労務士） 木村新一郎さん（1980年3月卒業・東新エナジー株式会社勤務）
20	【留学生紹介】特別編	取材：沖野雅広（企画広報室）	群馬県文化体験研修旅行レポート
21			流通経済大学出版会からのお知らせ・ 私大連盟教職員野球大会報告
22			

NEWS & TOPICS

総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント優勝／アジア大会に本学関係者が3名出場
9期生同期会／海浜実習／春学期卒業式／2014年度 第1回読書コメント大賞



スマホから顔を上げ、
笑顔で人生を送ろう。
暗い表情では
人生までも暗くなってしまふ。
喜劇王チャーリー・チャップリン、
彼は音楽にも秀でており、
「スマイル」という名曲を書いた。
心が痛むときでも、スマイル、微笑もう。
そう歌ったのである。
人生はスマホにはない。
人生は、懸命に生きる者にのみ、存する。
スマホではない、スマイルである。

まずはじめに、ゼミとは？

高校までの「答えのある問題を解く」勉強に対し、「自ら問題を発見し、議論や調査の中で答えを探す」ことがゼミでは求められます。この作業で社会人基礎力を養います。

仲間との絆も財産に

合宿やコンパ、学園祭への参加もゼミの楽しみ。協力してひとつの目標に取り組み中で生涯の友人や恩師が見つかります。

学ぶのは「問題発見・解決力」

大学には演習と呼ばれる授業があり、総じてゼミナールと呼ばれています。ゼミとはその略称です。

決められた教科書を元に学ぶのではなく、自ら好きなテーマを選んで研究するのが大きな特徴です。日頃からテーマになる関心事を探しておくことが大切です。

自分で研究テーマを決める

（高校までの）教員主導による講義型授業とは違い、学生主導で能動的な学びを展開するのがゼミです。一クラス一五名程度で座席を自由にレイアウトし、発表や意見交換をメインに進めるのが、よく見られるスタイルです。

あくまで学生が主役



[特集]

学生全員が主役 濃密な学び場

RKUゼミのすべて

流通経済大学は、開学から「実学主義」「少人数教育」「教養教育」の3つを教育理念としてきました。今回は、その中の1つ「少人数教育」の中で象徴的な学びであるゼミについて紹介していきます。

文：沖野雅広(企画広報室)



ゼミを支える環境

本学では、授業時間外に学生たちが自主的に勉強したり、プレゼンの準備をする施設、教員と学生をつなぐスペースなどを設け、より充実した活発なゼミ活動が行える環境作りをしています。

ゼミガイダンス

教員によるゼミの説明会を行っています。ゼミで扱うテーマや授業の進め方などを説明し、学生自身の興味や関心に合ったゼミを選択できるようにしています。

オフィスアワー

研究室に教員が待機し、学生がゼミや授業内容について自由に相談できる時間があります。

教員と直接話をする事で、自分の学びたいことをより明確にし、さらに深めることができます。

ノートPCやタブレットの貸し出し

ゼミ生全員にノートPCやタブレットを一年間貸し出すことも。これにより、情報を共有しながら作業を進めることもできます。

成果を発表するとき、成長を実感する

- **「経営学科」**
ゼミ対抗プレゼン大会
経営学科の二年の全てのゼミがプレゼンテーション能力を競う大会です。株式シミュレーションをもとに発表をし、教員や学生たちから講評を受け、内容と表現について審査されます。
- **「社会学部・流通情報学部」**
卒業論文発表
自分の追求したいテーマをもとにまとめた卒業論文の集大成として発表を行います。歴史・観光・異文化・心理・ロジスティクス、情報などテーマは多岐にわたり、毎回個性的な論文発表が行われます。
- **「スポーツ健康科学部」**
学年別ゼミ発表
学年ごとにテーマを決め、各ゼミで取り組んだ結果を報告します。中には、膨大な調査データをもとに発表を行うゼミもあります。



特別奨学生にはチューター制度
二〇三年度以降、特別奨学生には、ゼミよりさらに少人数をグループに、チューター制による学習支援が行われています。学生生活で頑張りたいことや将来の目標が明確な学生たちの「夢の実現」を応援しています。



このように、流通経済大学のゼミは受け身ではいられません。自分が好きなテーマにみずから進んで取り組んでいきます。なので「ゼミでの恥はかきすて」て、間違ってもいいので、どんどん議論をかわしてください。ここで学んだ実行力や問題解決力は、社会でそのままあなたの力になるでしょう。

少人数ゼミで学ぶ4年間



ゼミは成長できる場である!

流通経済大学では、全ての学生がゼミを履修します。ゼミに入らない、入れない学生はいません。そのため、大学生活の四年間で着実に力をつけるために、学年ごとに目標が設定されています。

一年ゼミ〈基礎力を高める〉
文献・資料の探し方から情報整理、プレゼン、レポートの作成に至るまで、大学での学びの基礎となるスキルを身につけます。少人数形式なのですぐに友達もできます。

二年ゼミ〈専門基礎を学ぶ〉
三年生から始まる本格的な専門学習の下準備の時期。まずは専門分野の基礎知識について学び、「いま、自分にとって興味あるテーマは何か」を探っていきます。

三年ゼミ〈研究を深める〉
本格的にテーマを打ち出し、文献調査やフィールドワークを通じて掘り下げていきます。自ら問題を発見・提起する力やそれを解決するための手法を身につけます。

四年ゼミ〈四年間の集大成〉
これまでの研究の成果をまとめて発表。担当教員のマンツーマンの指導を受けながら先行研究にない独創的な論文の完成を目指します。

教室を抜け出したことありますか?

ゼミでの活動は、机の前だけでは終わりません。時には、教室を飛び出して社会人とコラボレーションし、社会の今を体験することも。現場を体験することで新たな発想が生まれるかもしれませんね。

コラボの例

- 「社会学部」
常陽新聞社とコラボ
- 「スポーツ健康科学部」
「スポーツとコラボ」
日刊スポーツとコラボ
- 「経済学部」
学食「銀座スエヒロ」とコラボ
- 三井住友銀行とコラボ

【学長室だより】

キャンパス

選択制の

一〇年とこれから

学長 小池田富男



vol.22

Tomio Koikeda
Gakuchoshitsu Dayori

流通経済大学が千葉県の北西部に位置する松戸市新松戸の地に新キャンパスを開校したのは二〇〇四年四月であり、今年でちょうど一〇年目にあたる。現在では本学五学部八学科の学部学生五七二八名のうち、龍ヶ崎キャンパスに五学部の学生合わせて二五〇七名が、新松戸キャンパスにはスポーツ健康科学部を除く四学部の学生合わせて三三二名が、それぞれをメイン・キャンパスに指定して在籍している。

もともと本学における第二キャンパスの設置は、将来の二八歳人口の減少を予測して、かなり早い時期から構想されていたが、本学への受験者数が大幅に減り始めた一九九三年頃から、焦眉の対応策として、その実現が急がれた。千葉県を中心にいくつかの候補地が検討されたが、常磐線と武蔵野線が交差し、都心からも地下鉄で三分程度であり、また龍ヶ崎キャンパスとも一時間以内で移動が可能ということから、最終的に新松戸に決定した。松戸市は人口四八万人を擁し、その多くが首都圏に通勤通学する

生活都市であり、近隣には柏市や流山市、更には埼玉県三郷市、東京都とも隣接している等、一八歳人口の減少にも十分対応できるとして、この地が選ばれたのである。

新松戸キャンパスの開校にあたり、何よりも両キャンパスの具体的な運用方法についての詳細な検討が必要であった。一般的な教養課程と専門課程の分離という案や、学部学科単位の分割案を軸にして、様々なプランが検討された。当初の頃は、二、三年次の教養課程を新松戸に、三、四年次の専門課程を郊外の龍ヶ崎にという案が有力だったのを覚えている。しかし、首都圏から広く受験生を集めなければならぬという入試広報上の観点から、必ずしも龍ヶ崎キャンパスに行かなくても卒業単位が取れる制度が考えられな

いだろうかということ、それまで我が国では例のない「キャンパス選択制」が採用された。この「キャンパス選択制」は、あくまで在籍するメイン・キャンパスをどちらかのキャンパスに指定するといふものであり、それぞれが完全に独立して運営され

ることができた。

ただ、旧来からの慣行のまま教員の出校日が三日では、いずれかのキャンパスには一日しか居ないことになり、非常勤教員となんら変わらないことから、オフィスアワー等での学生への指導が十分に行われなくなる可能性が出てきた。そこで、二〇〇九年度に採用した教員から採用時の「雇用契約の条件」として、出校を四日以上とすることにした。すでに古くからいる教員の一部もまた、可能な限りで協力をしてくれており、このキャンパス選択制の存続する限り、これからも就業規則上の週四〇時間の範囲内で、出校日の適正化を図り、教育サービスを充実させていかなければ

ならない。

また、これまで全専任教員の個人研究室は龍ヶ崎キャンパスにあり、新松戸キャンパスで個人研究室を確保する必要がなかったことから、新松戸における教員の研究環境は必ずしも十分でなかった。しかし、来年の創立五〇周年の記念事業として、新館の建設に際し、新松戸キャンパスにも八〇前後の個人研究室を確保できる見通しになったことから、これを機に、教員の過半が研究の拠点を新松戸に移す予定である。これによつて新松戸キャンパスも、これまでのサテライト的な性格を脱して雰囲気も一変するだけでなく、教員の研究や学生に対する指導も成果が上がるも

のと期待している。

更に龍ヶ崎キャンパスでも、現在すでに本学の創立時からある古い二号館と三号館を取り壊し、これも五〇周年に記念事業として新館建設が予定されているが、新松戸キャンパス以上に龍ヶ崎キャンパスの充実が、これからの流通経済大学の帰趨を決するのではないかと考えている。この恵まれた自然環境と、最新の教育設備やスポーツ施設等を最大限に生かし、郊外型の龍ヶ崎キャンパスの総仕上げとして、このキャンパスの核になる建物が造られることを期待している。それは、現在計画している学部学科の再編や、新学科の設置にも対応できるものにならう。



新松戸キャンパス高層棟からの風景

【学長の活動】 2014年6月～2014年9月

- 6月**
- 2日 拓殖大学大学院にて講演
- 5日 「中央公論」学長インタビュー
- 10日 教員免許状更新講習実施委員会 学内理事会
- 12日 付属柏高校林校長来訪
- 17日 学部長連絡会議
- 23日 2020東京オリンピック連携協定締結式
- 24日 教員免許状更新講習実施委員会
- 26日 テレビ東京インタビュー取材
- 27日 高等教育の振興に関する協議会(新松戸)
- 28～29日 日本私立大学連盟学長会議(大阪)
- 7月**
- 1日 全学教員会議
- 9日 文部科学省佐野高等教育審議官訪問
- 12日 高等教育の振興に関する協議会(龍ヶ崎)
- 15日 社会学部教授会出席
- 17日 理事長懇談会
- 22日 教員免許状更新講習実施委員会
- 8月**
- 6日 AO入試
- 拡大全学入試協議会
- 19日 教員免許状更新講習修了判定会議
- 25日 企画広報室有識者会議
- 9月**
- 3日 運輸労連世永氏、全日通労組安達氏来訪
- 12日 日本物流学会懇談会(新松戸)
- 16日 学部長連絡会議
- 拡大全学入試協議会
- 日通学園理事会
- 経済社会学会全国大会講演(新松戸)
- 20日 大学協議会
- 23日 理事長懇談会
- 25日 春学期卒業式

外国では自分から動かなければ、何も経験することができません(山我)

海外に行くってみたいとは思っていたのですが、陸上部で頑張っていたので、スケジュールと渡航費用の問題があって、大学での研修にも参加できませんでした。そんな時、ゼミの西機先生に相談したら、先生のツテでシドニー在住の方を紹介していただけることになり、行こうと決めました。その方は、以前ラグビー部にコーチとしていらして、私のホストファミリーにもなってくれました。

——シドニーでは、どんな生活を？

ホストファミリーは五人家族で、お父さん、平日は単身赴任のお母さん、双子の男の子と末っ子の三人兄弟です。ただ、子どもたちも、学校の寮で生活しているので、休日以外は一人暮らしみたい

——どこに留学したのですか。

オーストラリアのメルボルンで二年間、語学の勉強と向こうの小学校の日本語アシスタントの仕事を経験してきました。

——それはどのような経緯で？

石巻で災害ボランティアに参加した際に、外国人ボランティアの方と知り合い、様々な話をする中で、海外に行ってみようという気持ちが強くなったんです。当時は日本のことも詳しく知らないのに海外へ行つても…という気持ちもありましたが、三年生になると教職の勉強で忙しくなるので、今しかないと思いました。

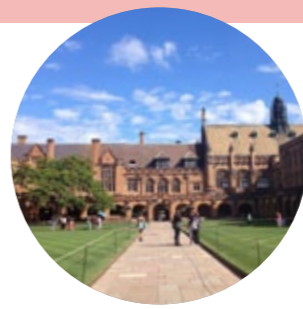
——行先をオーストラリアにしたのは。

本来は、「語学力をつけたい」海外で「この国」手段・方法」と決めて行くと思います。私の場合は、「海外に行きたい」↓「ここが良いかな」↓手段・方法↓何が「できるかな」でした。

行先についても先述した外国人ボランティアの方たちから情報収集する中で、メルボルンの日本語学校でアシスタントを募集しているのを知って、勉強以外にも体験したいと思い決めました。

——そのアシスタントの仕事というのは。

四か所の学校を日替わりで受け持りました。担当はプレップと呼ばれる子どもたち(幼稚園の年長〜小学六年生)です。日本の歌や折紙、剣玉、太鼓などを使って、日本の文化に触れてもらったり、日本語でのスピーチの相手もしました。



The Experience Notes of Studying Abroad

留学記

第3回目は、「行き先」を自分で探してオーストラリアに留学した学生2名に話を聞きました。

取材：沖野雅広(企画広報室)

第3回(全4回)
自己留学にチャレンジ!

Melbourne, Australia

オーストラリア・メルボルンへ留学
2012.03 ~ 2013.03 (1年間)



山我拓也さん
(やまがたくや)
スポーツ健康科学部・
スポーツ健康科学科3年



Year5から6(小学校6年生)に「ひらがな」の書き順を教えた山我先生との授業最終日の集合写真

——最後に留学を考えている人に一言。

外国では自分が「外国人」です。自分から動かなければ、何も経験することができません。経験したいと思ったことには、臆せずチャレンジしてほしいと思います。

——将来はどのように考えていますか。

海外に行くまでは、卒業後は教師になる、とあたりまえのように考えていました。でも、もっと海外について知りたいという気持ちも出てきました。教師になる前に、青年海外協力隊で、日本語教育や学校教育の仕事をしたが、自分の理想とする教育方法を見つけないかな、と思っています。

子どもたちの中には、私も知らない日本のアニメの話をする子がいて、日本人なのを疑われたこともあります(笑)。

——それは、良い経験をしましたね。

将来教員になる夢をもっていたので、海外の学校教育の現場での体験は、とても貴重なものとなりました。日本では、「先生↓生徒↑」という形、つまり受動的な授業形式が多いです。でも、メルボルンでは、「先生↑生徒↓」「生徒↑生徒↓」という双方の形が多いんです。能動的な授業が多いからこそ、人と話をするのに抵抗がなく、コミュニケーション能力が高いのだと気づきました。でも、向こうの先生からは、集団登校や椅子に規律よく座る日本の授業形式がうらやましい、とも言われましたけど(笑)。



【山我さんがアシスタントを務めた4か所の日本語学校】
・The Melbourne International School of Japanese, Inc (MISJ) <http://www.misj.org.au/>
・Syndal South Primary School <http://mtwaverleysbestkeptsecret.com/>
・Waverley Meadows Primary School <http://www.waverleymeadowsp.vic.edu.au/>
・Sussex Heights Primary School <http://sussexheightsp.vic.edu.au/>



日本・ブラジル・イタリア・スイス国籍の留学生が学ぶ基礎コースのクラスメイト

——自己留学のメリットとデメリットを教えてください。

私にとつてのメリットですが、「費用を安く抑えられる」「自分でスケジュールを立てられる」「友達との輪が広がる」です。研修で行くと決められたカリキュラムで授業が進んでいきますが、自己留学の場合、自分で足りないところを伸ばすカリキュラムを組むことができますし、さまざまな国の学生がいるので、自然と多言語に触れる機会も多くなります。

デメリットは、「学校について調べる」のが大変だということ。日本の学校のように、事細かな情報があるとは限りません。口コミなども参考にして、どんな学校か知ることが大事だと思います。

——最後に留学を考えている人に一言。

平日の昼間は、よく友だちと遊んでいました。私が通っていた語学学校の周りには、同じような学校がたくさんあって、授業が終わると、さまざまな国の留学生が集まるスペースがあったんです。そこで仲よくなった人と、市内を散策したり。一番の思い出は、シドニー大学を見に行ったことですね。映画「ハリポッター」の撮影場所でもあり、歴史的な建造物と最新設備で構築されたキャンパスには圧倒されました。

——自己留学のメリットとデメリットを教えてください。

私にとつてのメリットですが、「費用を安く抑えられる」「自分でスケジュールを立てられる」「友達との輪が広がる」です。研修で行くと決められたカリキュラムで授業が進んでいきますが、自己留学の場合、自分で足りないところを伸ばすカリキュラムを組むことができますし、さまざまな国の学生がいるので、自然と多言語に触れる機会も多くなります。

自己留学では、自分に合ったカリキュラムが組めます(阿部)

Sydney, Australia

オーストラリア・シドニーへ留学
2014.02 ~ 2014.03 (1カ月間)



阿部利沙子さん
(あべりさこ)
スポーツ健康科学部・
スポーツ健康科学科2年

キャンパス内留学 始めてみませんか？



ICPの受講生を
サポートしてくれる先生

Lauren
Eldekvist

Hi my name is Lauren. I studied photography at University in England and worked for Canon UK (the Japanese camera manufacturer) before moving to Japan to teach English.



「インターナショナル・コミュニティ・プラザ(ICP)」
スタート!

The ICP is a place for everyone to have fun practicing speaking English together in a relaxed environment. Students of all levels are welcome to join in!



ICPに参加した学生の声



(左から)唐澤 菜さん(社会学部国際観光学科1年)、福田悠人さん(経済学部経済学科1年)、飯田知佳さん(社会学部国際観光学科1年)

Q なぜICPに参加しようと思ったのですか？

夏休みに海外に行ったとき、あまり会話できなかったんです。そこで、英会話の必要性を感じて…。学校が始まったらICPの募集をしていたので、やるしかないと思って参加しました。(唐澤)

Q この講座の学びをどう活かしていきたいですか？

留学を検討しているので、英会話に慣れたいですね。将来働きたい職種でも英語力が必要だし、仕事で海外にドンドン出ていきたいと思っています。(福田)

Q この講座の印象は？

ネイティブな先生の日本語抜きでの授業で、初めは敷居が高いかな、とも感じました。でも、ローレン先生は、私たちのことも理解してくれるし、ポジティブに接してくれるので、気づいたら「頑張ろう」という意識が高くなりました。(飯田)

ICPの対象となるのは…

- 留学を希望する学生、留学から帰国した学生
- 英語関連課外講座受講生
- 国際観光学科の語学ゼミ、観光英語、海外インターシップ履修者
- その他、英会話学習や海外に関心のある学生すべて

(興味のある学生は学務課まで!)
☎047-340-0291

五〇周年を目前に控えた今、新松戸キャンパス四階にあるインターネット・イングリッシュ・カフェを対象エリアとし、キャンパス内に新たなもう一つのキャンパスが誕生。その名は「インターナショナルコミュニティプラザ(ICP)」です。

昨今、さまざまな場面で外国語、特に英会話能力の必要性が高まっています。また、本学でも留学を希望する学生は増加傾向にあり、個人的に長期の休みを利用して海外旅行を楽しむ学生も多いようです。

そこで、留学したい、国際交流活動に参加したいという学生たちのために、キャンパス内で海外気分を味わえる「キャンパス内留学」とも言える講座を新たにスタートしました。もちろん英語に自信がない、でも海外に行ってみたい・興味があるという学生も大歓迎。

九月の説明会には多数の学生が参加し、現在では五〇名を超す学生たちが英会話力をつけるために登録し、受講しています。

この機会に、キャンパス内留学を始めてみませんか？



[経理部経理課]

川村典由 職員

昔話を読み聴かせて…

本学法学部を卒業し、職員となって5年目になります。経理部経理課に所属し、主に現金の出し入れ、管理など出納業務を担当しています。

最近息子に日本昔話を読み聴かせる機会が増えました。小さい頃自分も読んでもらいましたが、改めて読み返すと、とても奥が深いことがわかります。

例えば、「鶴の恩返し」は約束を守ることの大切さ、「桃太郎」は仲間と力を合わせれば困難も乗り越えられるということに気付かせてくれます。その中で、私が特に心を動かされたのは、「笠地蔵」です。

おじいさんは雪の中寒そうに立っている地蔵に、自分が身に着けている笠をかぶせます。自分を犠牲にしても他者を思いやる心の寛大さは、見習わなければなりません。

「思いやり」とは、社会生活を送る上で必要不可欠なものです。しかし、必要不可欠でありながら、それについて考える機会はあまりないように思います。難しいことではありません。今一度、思いやりの大切さについて考えてみようと思いました。



[スポーツ健康科学部]

膳法亜沙子 講師

知識を実践する—
運動と栄養

今年度よりスポーツ健康科学部の講師として着任しました。私は「中高齢者や肥満者における健康づくり」などスポーツ栄養学に関する研究をしています。特に、サプリメント摂取による健康づくりや肥満者における食事・運動指導に取り組んでいます。ヒトの身体機能は、加齢や肥満とともに低下することが明らかにされています。しかし、食事や運動の改善により、身体機能の低下を抑制させる効果が認められています。健康を維持するためには、適切な食生活と運動について知ることが必要です。私は、研究成果を理論で終わらせることなく、一人でも多くの人により良い生活習慣を促したいと考えています。本学では、栄養や運動の基礎的な知識をわかりやすく伝え、興味深い授業づくりをすることが私の使命だと思います。また、学んだ知識は、論文執筆で終わらせることなく、地域住民への健康づくり指導を行う場も設けたいと考えています。本学から健康づくりを積極的に発信することができるように教育および研究に取り組みたいと思います。



[法学部]

箕輪允智 講師

「地域」を探しに
いきませんか?

4月より法学部に着任しました。講義科目は「地方自治論」等で、研究でも「地方自治」を専門にしています。日本の「地方」といえば、どこも似た景色だし、どこでも同じでは?と思われることが多いですが、実態はそうではありません。自治の姿は、一つ一つの家庭・家族の有様が千差万別のように、地域によってかなりその様子は異なります。それらが、なぜ、どのような経緯をもって異なる姿が作られてきたのか、そして今後、地域をより良くしていくためにどのようなことをしていかなければならないのか、ということに関心を持って研究しています。

このような関心から、北海道から沖縄まで色々な地域（これまで主に国内ですが、これから国外の地域も）の自治の姿・形を聞いてくる機会を作ることが大切になっています。それを踏まえて、今後は学生が様々な形で自治に参加し、地域と関わることで、地域で活動していくということは「結構面白いんだ」と感じてもらえるような研究・授業・活動をしていけたら良いなと思っています。



[流通情報学部]

新津泰昭 講師

私の研究

私は、2014年4月から流通経済大学で勤務しています。現在、教員1年目です。専門は「経営戦略」。授業でも専門科目は「経営戦略論」を担当しています。

現在最も関心のある研究テーマの一つは、製造業（特にB2B）におけるICT（Information and Communication Technology）を使ったビジネスです。近年は、性能の優れたモノを売るだけでは大きな利益を上げることが困難になっています。こうした環境下で、ICTを駆使し、これまで収集・共有しにくかった情報をビジネスに活用しようとする製造業者が増えています。例えば、モノを「売った後」のサービス（アフターサービス）で儲けようとしたりと、ICTの可能性は実務界・学術界の両方から注目されています。しかし、同じようにICTに価値を見出していたとしても、企業の中には成功している企業と成功していない企業があります。この違いは一体どこにあるのか。その成功・失敗の背後にはどのようなメカニズムが働いているのか。この謎を解き明かすべく、日々を過ごしています。



[社会学部]

下司優里 講師

知的好奇心に素直に

私の専門は障害者福祉です。大学院ではカナダの知的障害者福祉・教育発達史をテーマにしていたので、毎年カナダに滞在し、大学図書館や公文書館で史料を探してはコピー（又は写真）をとっていました。

歴史研究や文献研究というと、一人で黙々と本を読んでいると思われがちですが、実はとてもハードで社交性が求められる研究法です。ぼろぼろで分厚い資料を扱い、希少な史料や証言者と会うために地球の裏側まで行きます。体力勝負ですので、学生時代、スポーツに打ち込んでいて良かったと思いましたが、所蔵調査・資料収集のために図書館員や司書と交渉しますし、もちろんほかの研究者とも研究討議しなければなりません。時には人とぶつかることもあります。私も、何度カナダ人とfightしたことか…。それでも、自分の「知りたい」という気持ちに素直に行動し、葛藤を乗り越えて真理に近づけたときの達成感はたまりません。

本学では一人でも多くの学生の好奇心の芽を育て、知的な喜びを感じてほしいと思っています。



[経済学部]

杉山和明 准教授

流経大での日常

2009年4月に本学に着任して6年目になります。担当しているのは、一般教養科目の人文地理学、教職課程科目の人文地理学概説、1年演習（ゼミ）などです。地理学は、社会環境と自然環境をともに対象とする研究領域がとても広い学問です。私は、社会環境に重点を置く人文地理学のなかでも、社会地理学や文化地理学と呼ばれる分野を専門としています。

教職課程を履修する学生と接する機会が多くありますが、4年間で驚くほど実力を伸ばす人がいて、こちらも大いに刺激を受けてきました。やる気になった若者の伸びには目を見張るものがあります。龍ヶ崎キャンパスでは、週に一度クラブハウスに泊まっています。遅くまでトレーニングに励んでいたりと、合宿したりしている学生たちの姿を見ると、夜になっても全然寂しくありません（いろいろな生き物の鳴き声も聞こえてきます）。こちらも負けじと、同じ宿泊仲間の先生方と時には賑やかな夜を過ごしています。本学が培ってきた自由闊達な学風を、皆さんとともに継承していきたいと思っています。

馬場啓一の
RKU
ウォッチング
RKU Watching



●田畑 亨/たばた・とおる

1980年生まれ。東京都出身。国士舘大学大学院スポーツシステム研究科博士後期課程退学。2007年4月より流通経済大学スポーツ健康科学部着任。本学では、スポーツ政策論、スポーツと国際関係、陸上競技、キャンプ実習を担当。



Toru Tabata × Keiichi Baba

「そう、高いのです。それでも人々が食べたがる。人気があるのですね」
聞けば聞くほど不思議だが、喜んでもらっているというのだから、悪い気はしない。
「いわゆる多民族国家であり、都市と農村との格差も存在します」
ひところ騒がれた民衆のデモンストレーションも、まだ記憶に新しい。
「そういう状況は現実として存在しますが、暮してみると、例えば農村部の人々の気質はおおらかで、陽気です。それは昔の日本人にも通じるものかもしれない」
何かと話題になるイスラム教も、インドネシアなどと比べると勢力は弱いという。
「なんといつても仏教の国なのですね」
「なんだか、わかってきた。そういうわけですから、本学もタイやベトナムからの留学生を留学生として積極的に入学させるようになると思いますね。勿論こちらから留学先として



【第26回】

スポーツ健康科学部
田畑 亨
准教授

「田畑亨先生に
東南アジアの現状を聞く」

いまアジアが熱い。
中でも東南アジア、特にベトナムやタイ。これらの国々では一種の日本ブームだという。また同時に、日本人の、これらの国々への関心も、高くなっている。
「東南アジアの事情に詳しいスポーツ健康科学部の田畑亨先生に、最近の情報をうかがった。」
「昨今の東南アジア、なかでもベトナムやタイなどインドシナ半島の諸国は、日本への関心が非常に高いんです」
「日本ですか」
「はい、東南アジアの中心は地理的にはタイとかベトナムですが、そういう国々で特に高いんです。欧米より、日本なのです」
「欧米より日本が人気とは、嬉しいですね」
「例えば日本食の人気の高さ」
「それは、高いんです。それで、日本茶にそっくりなお茶がタイにもあって、何気なく飲んでみると、なんと砂糖が加えられていたりする」
「皆さん驚かれます。でもお茶全体の飲み方からすると、砂糖を加えない方が世界的には珍しい。英国でもロシアでもお茶には砂糖を加えます。モンゴルのお茶も、甘いですね」
「それはそうですね」
「文化とはそういうもので、日本と全てが同じなわけではないのですが、そのような彼我の違いを受け止めながら、冷静にかつ愛情を持って接すること、これが大事でしょう」



あれから40年近く。
今となっては
いい思い出
ばかりです。

——長谷川さんと木村さんは本学の同級生でいらっしやるのですね。

長谷川 ええ。私は経済学部経営学科、木村君は経済学部経済学科の学生でした。

——学科が違うお二人は、どこで出会ったのですか？

長谷川 大学に入学して一週間くらい経った頃だったと思うのですが、たまたま大学の名前を冠している「流通経済研究会」に興味を持ちまして。でも、なかなか自分から入っていく勇気がなく、そんな時に木村君に声をかけてもらったのが始まりです。

木村 僕の方が少し早く研究会に入っていて、勧誘したんです。

——流通経済研究会では、どのような活動をされていたのですか？

長谷川 つくばね祭では毎年展示発表が必須課題になっており、それ

OB/OG訪問

立川が聞く。

今回は、本学の12期生で、38年来のご友人同士である長谷川さん(社会保険労務士)と木村さん(東新エナジー株式会社勤務)にお話を伺いました。

第12期生
(1980年3月 経済学部卒業)

長谷川祐司 さん

Yuji Hasegawa

木村新一郎 さん

Shinichiro Kimura

〈取材〉
立川和美 (社会学部教授)



されていて興味深かったですね。
——では、お二人は専らサークルで一緒だったのですか？

木村 いや、実はゼミも一緒でした。流通経済研究会の顧問をしてくださった定村先生のゼミです。三年生のときには神津島にゼミ合宿に行きましたね。

長谷川 あの時は台風が来て、苦渋の決断で二日早く東京に戻ってきたんだよね。そんなことも、今となつてはいい思い出ですね。

——卒業後は別々の会社に勤務されたということですが？

長谷川 私は、「花菱縫製」という会社に就職しました。今考えると、将来のあてもなく、漫然と四年間を過ごしていましたから、採用していただいたことに感謝しています。本社での営業事務から始まり、店舗への配置換えを経て、入社二年で本社営業事務へと戻りました。「自分の居場所がある職場」という雰囲気が好きで頑張っていました。入社二年目を迎えたころ、人事への異動の誘いがあつたんです。人事の仕事でどう会社に貢献するかを考えているうちに社会保険労務士(社労士)という資格があることを知り、自分に適性がある

には力を注ぎました。学園祭の数か月前からの協働作業はサークル部員の結束力を深め、自己効力感を高めてくれましたね。毎週二回、私が住むアパートに数人が集まって語り明かしたこともいい思い出です。

木村 つくばね祭では、毎年テーマを決めて企業訪問をしたり、それに基づく文献調査をしたりしましたね。
長谷川 学園祭には毎年OBの先輩がこの展示をご覧にいらっしやり、差し入れを頂戴することもあり、嬉しかったですね。現在の学園祭では、展示発表が少なくなつて、少しさびしい気がします。
木村 数年前に、つくばね祭における活動を拝見しました。就職課にも伺い、終身給与に関する展示などを拝見し、なかなか工夫

が、これに加えて相談業務というものがあります。

——相談業務というのは？

長谷川 この部分は、社労士でも、仕事のやり方にたいぶ個人差が出る部分ですね。私は、社労士の仕事というのは企業と関わっている以上、何でも屋である必要があると考えています。何でも屋とは、その場で何でも答えるのではない、わからないことは調べ

て後で回答する。そのためわからないことを訊きあえる異業種の士業の方たちとの輪も持っています。また会社内で今困っている労働周辺の問題としては、抑うつ症状の方とどう向き合うか、従業員のキャリアをどう向上していくか、コミュニケーションやリーダーシップのとり方も会社の存続に関わってきます。そういった点を鑑み、産業カウンセラー、キャリア・コン

サルタントの資格を取得し、社労士専門の業務に限らずできるだけ個々の会社にコミットしたコンサルティングを目指しています。
また、現在は若年ながら社会保険労務士会の理事を拝命しておりますので、社労士の動向を内側から見て、各会員の質の向上を図るといった仕事もしています。

おり、最近の若い人にいつも言うことは、「きちんと挨拶をしよう」「相手の話をしっかり聴こう」ということ。両方とも簡単なことですが、会社ではこの二つができることで、仕事があまくいくんですよ。気持よく挨拶されれば誰でも気分が良くなり、自分の話を聞いてくれる人には、自然と心を開いていきますよね。大学生は、高校生のよう先生から毎日こ

——そうしたお仕事の中で感じられることは？

長谷川 ヒューマンスキルの重要性ですね。社会の中では、自分さえ良ければいいという人や、自分自身が何者なのかを分かっていない人が、時々見受けられます。ですから学生の皆さんにも、人生を歩んでいく上で宝ともなる「ヒューマンスキル」を磨くことは、ぜひ心がけてほしいですね。それから「ファシリテーション」も、これからの時代に必要な能力要件だと私は考えます。これは「社会人基礎力」

うしたことの指導を受けるということはないわけですから、自分で意識して行動していかなくてはいいけないことだと思います。

の下地にもなります。特に体験型ファシリテーションは、人として大切な気づきを与えてくれるものです。人は「生きる」だけではない、「活きる」ことも必要です。

皆さんも多いと思います。焦らないでください。但し、アンテナは常に張って、心の準備は整えておく。転職は必ずあります。転職が見えるか見えないか、掴めるか掴めないかは、それまでの経験や感性によるところが大きいです。掴める時に「やる、やらない、保留」を自分自身が責任をもって決断できるようになってください。将来の自分を想像し、今の自分が決断する。キャリアをデザインするのは皆さん自身です。頑張ってください。



Wonderful Life Stories with
Dr. Kazumi Tachikawa

今回は、さいたま市にある長谷川さんの事務所で、長谷川さんのお母様お手製の美味しいカステラを頂戴しながらお話を伺いました。穏やかな中にも論理的にお話を進める長谷川さんと、やさしい中にユーモアを交えながらお話しされる木村さんは、「損得なく付き合える友」といえる関係でいらっしやる。長谷川さんいわく「木村さんはたぐいまれなお人よし」ということですが、お二人のご様子を拝見して、素晴らしい友人を得ることの大切さが強く伝わってきました。毎年、夏の「常総花火大会」には、家族ぐるみで流経大の仲間が集うそうです。「今年も楽しみだ」とおっしゃるお二人が印象的でした。

「なるほど。最後に、流経大生にひとことお願いいたします。」
木村 現在は人事の仕事もして

「ありがとうございます。」
——ありがとうございます。

【出版会】

新刊のお知らせ

本書は世界で初めて編纂されたレベニュー・マネージメントの教科書である。ホスピタリティー産業の単なる価格設定技法の解説にとどまらず、事業の本質や取引の倫理を基本とし、レベニュー・マネージメントの普遍的価値を啓蒙する。レベニュー・マネージメントとは、ホスピタリティー産業特有の供給制限を伴う限りある商品やサービスを最適な顧客に、最適な場所で、最適なタイミングで提供するための最適な価格設定と売上の最適化戦略である。独立した新しい学問の一分野で、アメリカ航空規制緩和法が施行された1980年代に航空会社が発明したイールド・マネージメントに始まり、1990年代からホテルの

価格設定に取り入れられ、21世紀に入り、供給制限と在庫の消滅性を伴う商品やサービスを取り扱う産業全般で発展している。顧客中心主義がその根本理念である。ホスピタリティー産業を学ばれている方、必読の一冊。



「ホスピタリティー産業のレベニュー・マネージメント」
David K. Hayes & Allisha A. Miller 著
中谷秀樹 訳
(B5判・並製・504頁・2,700円+税)

【教職員野球大会】

第51回 日本私立大学連盟教職員野球大会 **優勝 V3**

8月6日～8日に開催された2014年度 第51回 日本私立大学連盟教職員野球大会において、本学教職員野球部が3連覇を果たしました。今回も2人の学生トレーナーが帯同、選手たちのサポートをし、優勝に向けて大きな貢献してくれました。



丸山和也さん (スポーツ健康科学部2年) 保科裕太郎さん (スポーツ健康科学部1年)

第51回私立大学連盟教職員野球大会 試合結果

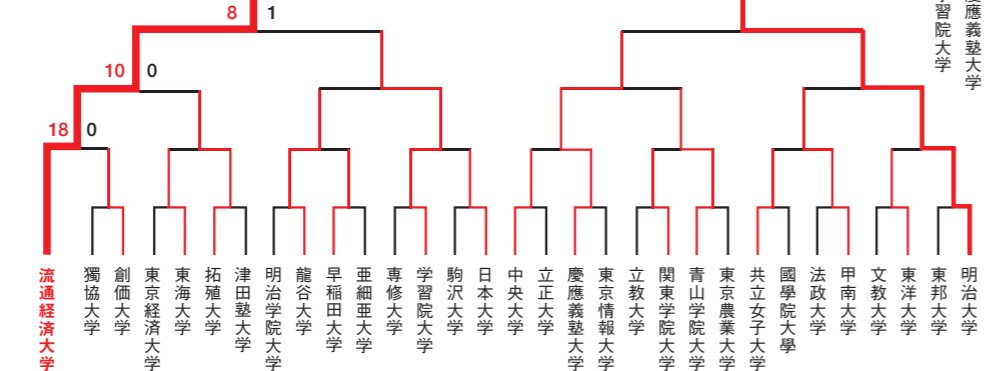
【大会結果・表彰選手】

優勝—流通経済大学 準優勝—明治大学

3位—慶應義塾大学 4位—学習院大学

MVP—山崎将義

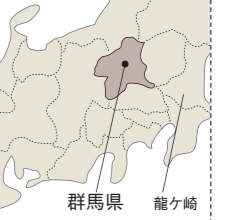
(流通経済大学キャッチャー・経理部管財課)



留学生紹介

特別編

取材:沖野雅広(企画広報室)



群馬県文化体験研修旅行コース

龍ヶ崎キャンパス・新松戸キャンパス

スバル ビジターセンター 矢島工場見学

織物参考館“紫”にて藍染め体験

昼食(桐生うどん)

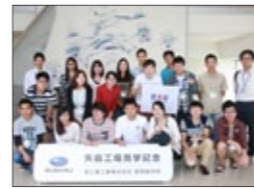
高津戸峡散策

新松戸キャンパス・佐貫・龍ヶ崎キャンパス

群馬県文化体験研修旅行レポート

夏休みも中盤に差し掛かる8月28日、国際交流課による日本人と留学生の交流を兼ねた文化体験研修旅行が実施され、学生18名、職員3名が参加しました。今回は、国内の自然・産業・文化に触れてもらうことを目的とし、最先端技術による車生産工場の見学、日本古来の藍染め体験、さらに雄大な自然を体験できる群馬県桐生市・太田市・みどり市での実施となりました。

スバルビジターセンター 矢島工場 (群馬県太田市)



富士重工業株式会社(スバル)の工場に併設された、スバルの歴史や技術などについて紹介をしている施設です。

参加者の感想

- 車づくりの全工程が見れて良かった。
- 日本の機械技術は凄と思った。
- 工場の迫力に驚いた。
- マジックのようでした。
- 工場のシステムが自動的なところに驚いた。

織物参考館“紫” (群馬県桐生市)



織物の歴史を感じ、織物に触れ、体験することができる施設。今回の研修旅行では藍染め体験をしました。

参加者の感想

- 自分の想像した通りのものが作れた。
- 世界に一つだけの藍染め。大切にします。
- 自然の財宝と人間の知恵にビックリ。
- 化学成分ではなく、自然の材料がいいなと思った。

高津戸峡 (群馬県みどり市)



「関東の耶馬溪」とも言われる、渡良瀬川中流の渓谷。遊歩道やはねたき橋など、観光の名所となっています。

参加者の感想

- 散策するには良い天気だった。すばらしい絶景だった。
- 雨の影響か足元がかなりすべった。
- いい気分になった。
- 昼食後の散策には、良い。



参加者アンケートより

今回の参加をした理由は何ですか?

- 友達に参加するというので…。
- 日本の文化を体験したかった。
- 大自然の雰囲気を楽しみたかった。
- いい思い出づくりになると思って。

参加してみた感想は?

- いろいろな国の人と話ができよかった。
- 新しい友達もできてよかった。
- 群馬県以外も行ってみたい。
- 時間が短かったのが残念。

次に同じようなツアーがあったら行先の希望は?

- 箱根/日光/長野(軽井沢)/富士山/伊豆/関西/栃木/神奈川/牧場
- 日本の伝統が見れるところ。
- 世界遺産が見れるところ。

RKU Schedule

2014年11月～2015年3月

全学

11月
1日～2日 ● つくばね祭(龍ヶ崎キャンパス)
24日 ● 通常授業日

12月
24日～1月3日 ● 冬季休業

1月
20日～2月2日 ● 秋学期定期試験

2月
3日～3月31日 ● 春季休業

就職関連〈就職ガイダンス〉

11月

- 企業が求める人材像
- 就職マナー講座
- OB・OGからのアドバイス
- 女子学生ガイダンス

12月

- グループディスカッション講座
- 就職戦線出発式

[編集後記]

- 連続する巨大台風や火山噴火と大規模災害が続いた秋。テレビニュースの生々しい被災地の映像の中、地元消防や警察に加え、自衛隊やDMAT(災害派遣医療チーム)が、悪天候の中で救助・捜索する場面が印象的だった。
- 穏やかな小春日和、小鳥のさえずりが響く龍ヶ崎キャンパスのサッカーグラウンドに、サイレンを鳴らして救急車が到着。ほどなくドクターヘリが舞い降りた。地元の消防から電話があつてまだ10分程のことである。
- 市街地に隣接した広大なグラウンド(サッカー・ラグビー)はドクターヘリと救急車のランデブーポイント(緊急離着陸場)であり、今年に入って既に5回程の着陸要請があつたように記憶しているが、年を追うごとに要請回数は増えている。
- 大学の地域貢献という、公開講座や図書館開放、産官学連携、ボランティア派遣などが思い浮かぶけれど、こういった形で地域のお役に立つことも大切にしたい。
- 本学のスポーツ健康科学部で救急救命(ライフセービング)を学び、卒業後はプロの道に進んだ学生もあり、きっと命の大切さをかみしめながら日々頑張っていることと思う。

(編集子)

海浜実習

4

6月27日から7月3日の間、スポーツ健康科学部の学生が2班に分かれて沖縄県の渡嘉敷島での海浜実習に参加しました。

海浜実習はスポーツ健康科学部1年生全員が参加する必修科目で、大自然の中で「生命の尊厳」や「人間力」を学び考えるという体験をするものです。



総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント優勝

1

流通経済大学サッカー部は、8月17日に大阪・キンチョウスタジアムで行われた第38回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメントの決勝戦で法政大学に2-1で勝利し、2年連続3度目の優勝を果たしました。



2014年度 第1回読書コメント大賞

6

本学図書館が開催している「読書コメント大賞」は、学生が本を読んで感じたことをポップ広告風の作品にして応募する企画で、2007年から毎年開催されています。

2014年度の第1回読書コメント大賞には、149点の応募の中から5点が選ばれました。

[2014年度 第1回読書コメント大賞]

諏訪有紀(社会学科2年)
「かわいくない子どもたち：発達障外の時代」
山村賢明 著(広池学園出版部)

小池水樹(社会学科2年)
「子どもの個性：生後2年間を中心に」
三宅和夫 著(東京大学出版部)

福田彩加(国際観光学科3年)
「9割がバイトでも最高のスタッフに育つディズニーの教え方」
福島文二郎 著(中経出版)

篠原舞子(ビジネス法学科1年)
「階段途中のビッグ・ノイズ」
越谷オサム 著(幻冬舎文庫)

齋藤一輝(自治行政学科1年)
「神様のカルテ(1、2、3)」
夏川華介 著(小学館)

春学期卒業式

5

9月27日、龍ヶ崎キャンパスにおいて春学期卒業式がとり行われました。恩師や家族の見守るなか、35名の卒業生一人ひとりに小池田学長から卒業証書が授与されました。



9期生同期会

3

10月18日、9期生の同期会が龍ヶ崎キャンパスで開催されました。その後、学食に移動して懇親会が開催され、参加者の皆さんは還暦を迎えた旧友たちとの再会に時を忘れて語り合っていました。



アジア大会に 本学関係者が3名出場

2

9月19日から10月4日まで韓国・インチョンで開催された第17回アジア競技大会に、本学関係者が3名出場しました。



ボウリング

向谷美咲
(スポーツ健康科学部4年)
・個人 41位
・ダブルス 10位
・トリオ 10位
・5人チーム 6位入賞

トライアスロン

田山寛豪
(本学職員)
・25日 個人 2位入賞
・26日 混合リレー 優勝
(2番手として出場)

ラグビー

萩澤正大
(2012年3月卒業)
・男子セブンス 優勝

RKU OPEN CAMPUS 2014

流通経済大学の2014年度オープンキャンパスは10月ですべての予定を終了しました。
 龍ヶ崎キャンパス、新松戸キャンパスともに今年も多くの方々に参加していただき、
 学生アドバイザーや教職員との交流で、より本学を知っていただけたことと思います。
 今後も入試相談会やキャンパス見学など随時受け付けていますので、お気軽に入試センターまでお問い合わせください。



入試日程 (全学部)

入試種別	期	出願期間	試験日	入試種別	期	出願期間	試験日
推薦 (自己推薦)	Ⅱ	11/6 木 ~ 12/2 火	12/6 土	奨学生選抜 (3科目型)	I	12/15 月 ~ 1/27 火	2/1 日
	Ⅲ	12/11 木 ~ 1/20 火	1/24 土		Ⅱ	12/15 月 ~ 2/6 金	2/11 水
	Ⅳ	10/27 月 ~ 11/12 水	11/15 土		Ⅲ	12/15 月 ~ 2/18 水	2/23 月
AO (一般・やる気特別・課外活動)	Ⅴ	11/17 月 ~ 12/9 火	12/13 土	奨学生選抜 (大学入試センター試験利用型)	I	12/15 月 ~ 1/30 金	個別試験は実施しない
	I	12/15 月 ~ 1/27 火	2/1 日		Ⅱ	12/15 月 ~ 2/27 金	
一般 (3科目型・2科目型)	Ⅱ	12/15 月 ~ 2/6 金	2/11 水	大学入試 センター試験利用 (3科目型・高得点2科目型)	I	12/15 月 ~ 1/30 金	個別試験は実施しない
	Ⅲ	12/15 月 ~ 2/18 水	2/23 月		Ⅱ	12/15 月 ~ 2/18 水	
	I	12/15 月 ~ 1/27 火	2/4 水		Ⅲ	12/15 月 ~ 2/27 金	
一般 (得意科目型)	Ⅱ	12/15 月 ~ 2/6 金	2/12 木				
	Ⅲ	12/15 月 ~ 2/27 金	3/4 水				

入試相談会 両キャンパスで開催中

【平日】 9:00~17:00
 【土曜日】 9:00~13:00

※開催日はホームページでご確認ください。

【お問い合わせ】

流通経済大学
 入試センター

☎ 0120-297-141

✉ ees@rku.ac.jp

🌐 <http://www.rku.ac.jp/go>

📱 <http://www.rku.ac.jp/go/m>



RKU RYUTSU KEIZAI
 UNIVERSITY

流通経済大学広報誌 **RKU Today vol.29** 2014年11月発行
 編集・発行 / 学校法人日通学園 流通経済大学企画広報室
 茨城県龍ヶ崎市平畑120 〒301-8555 TEL:0297-64-0001(代表)

